

平成28年度

事業報告

平成28年4月1日から

平成29年3月31日まで

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会

はじめに

WCRP 日本委員会は、混迷する世界において、宗教者として平和の実現を目指し、国内外で人々が抱える諸問題に積極的に取り組むため、諸宗教間のネットワークや各界との協力を通じて、平成 28 年度の事業を実施した。

『他者と共に生きる歓び』のための祈りと行動」の総合テーマのもと、(1) ネットワーク化、(2) 啓発・提言活動、(3) 平和教育・倫理教育、(4) 人道的貢献を行動指針として、事業を展開してきた。とりわけ、本年は、国際司法裁判所 (ICJ) が核兵器の使用が違法であるとの勧告的意見を表明してから 20 周年にあたり、さらに包括的核実験禁止条約 (CTBT) が締結されてから 20 周年の節目を迎えた。これを契機に、WCRP 国際委員会と協力し、国際軍縮会議を開催した。

さらに 4 月に発生した熊本地震の被災者に対する復興支援事業を実施するために、緊急に特別事業部門 (タスクフォース) を立ち上げ、特に熊本県阿蘇郡西原村を中心としたボランティア活動や、「災害弱者」といわれる方々への支援を実施した。

その他 WCRP 日本委員会では 5 つの特別事業部門 (タスクフォース)、①東日本大震災復興事業、②核兵器禁止条約、③気候変動、④難民問題、⑤和解のための平和教育による事業をはじめ、「平和のための宗教者研究集会」や「平和大学講座」をはじめとする学習会を通して、平和に関する諸課題についての学びを深め、そのメッセージを幅広く発信した。

I. 事業部門

A. 諸宗教間の対話と協力を通じた平和のための活動と研究を推進する事業

(公1)

事業の趣旨（目的）

諸宗教間の対話により相互理解を深めるとともに、諸宗教間による協力・協働を基盤として、宗教者のみならず、不特定多数の人々に対して、平和を脅かす諸課題の解決のための活動を普及し、宗教の叡智に基づく平和構築のための啓発・提言活動を行うことにより、異文化間または国際的な相互理解の促進、世界平和の確立、より良い社会の形成、豊かな人間性の涵養並びに文化の向上に寄与し、ひいては世界の平和のために貢献する。

1. 諸宗教間対話・ネットワークを通じた宗教協力

(1) 諸宗教間対話・ネットワーク

全事業を通じて、仏教、神道、キリスト教、教派神道、新宗教団体、イスラーム、ヒンズー等をはじめとする宗教・宗派間の対話を促進し、平和のために協力するネットワークを構築した。

平成28年度の事業は以下の通り。

①ミャンマー諸宗教者受け入れ

期 日：平成28年4月4日～8日

開催地：立正佼成会本部、明治神宮、日本プレスセンター、妙智會教団本部、参議院議員会館（東京都内）

概 要：WCRP/RfP ミャンマー委員会のメンバーを含むミャンマー4大宗教（仏教、イスラーム、キリスト教、ヒンズー）の指導者10名並びにWCRP国際委員会の杉野恭一副事務総長が来日した。ミャンマーの平和のためには諸民族・宗教間の融和が不可欠であり、日本において宗教指導者や政治家、市民社会との対話を通して、暴力的過激主義や宗教の名のもとに行われる差別や暴力を阻止するために、日本とのパートナーシップを促進することが目的。
主な行程は以下の通り。

4月4日：到着

4月5日：庭野日鑛 WCRP 日本委員会会長（立正佼成会会長）表敬訪問。
明治神宮を訪問し、神道を学ぶセッションを実施。

4月6日：記者懇談会（日本プレスセンター）

公開シンポジウム「Welcoming the Other に向けた実践と課題」
（妙智會教団本部）
レセプション

4月7日：WCRP 国際活動支援議員懇談会（参議院議員会館）

木原誠二外務副大臣と面会（外務省）

内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

②ハイレベル国際コンサルテーション

期 日：平成 28 年 5 月 12 日～13 日

開催地：都内ホテル（東京都渋谷区）

概 要：国連「文明の同盟」と WCRP 国際委員会が共催し、同日本委員会が協力して「中東宗教指導者との協力：ムスリム多数派国における少数者保護」をテーマに開催された。ムスリム多数派国家のあらゆるコミュニティにおいて、少数派の完全な市民権の保障を促すために、スンニ・シーア派の世界的な宗教指導者、キリスト教、仏教をはじめとする 60 名以上の国際的に著名な宗教指導者らが集結した。「最終コミュニケ」を採択し 4 つの行動計画に取り組むことが合意された。

内容は、機関誌「WCRP」7月号に掲載。

③ACRP 創設 40 周年記念シンポジウム

期 日：平成 28 年 10 月 26 日

開催地：京都市国際交流会館（京都府京都市）

概 要：

「いかに宗教の名を使った暴力的過激主義に応答するか？」をテーマに、寺島実郎氏（日本総合研究所会長）を基調発題者に迎えて実施した。

国内外の宗教者、研究者、市民など約 220 名が参加した。

内容は、機関誌「WCRP」11月号に掲載。

④世界人道サミット

期 日：平成 28 年 5 月 23 日～24 日

開催地：トルコ・イスタンブール

概 要：

紛争や自然災害、気候変動などによる人道危機を克服するために、国連主催で開催された。173 カ国から国家元首、市民社会の代表者等約 9000 人が参加し、WCRP 日本委員会も同国際委員会とともに参加した。

内容は、機関誌「WCRP」6月号に掲載。

⑤ACRP 執行委員会

期 日：平成 28 年 4 月 29 日～30 日

開催地：韓国・ソウル

概 要：

アジア 16 カ国から約 60 人が参加。WCRP 日本委員会から、ACRP 共同会長の庭野日鏡会長、執行委員の杉谷義純理事長、植松誠理事、川端健之理事、黒住宗道理事、國富敬二事務局長が出席した。ACRP の戦略的行動計画について協議し、5 つの行動指針に基づき、具体的なプログラムを策定することが合意された。

⑥第 1 回日韓宗教指導者交流

期 日：平成 28 年 4 月 30 日

開催地：韓国・ソウル

概 要：

韓国宗教人平和会議（KCRP）と WCRP 日本委員会による「日韓宗教指導者交流」が初めて開催された。

⑦韓国宗教平和国際事業団（IPCR）国際セミナー

日本・韓国・中国の宗教者・学者が集まり「東北アジア平和共同体構築のための課題と実践」をテーマとするセミナーが開催された。概要は、下記「3. セミナー・スタディーツアー」の通り。

（2）熊本地震緊急支援

①ボランティア派遣

南阿蘇郡西原村において、4月28日から7月までボランティアを約50名派遣した。被災者のニーズの聴き取り、ボランティアセンターの運営支援などに従事した。

②緊急支援募金

4月27日から6月末まで、緊急募金を実施した。

③ラジオ番組の放送

11月12日より、被災者への心の癒しを提供するトーク番組を熊本シティエフエムでスタートした。週2回放送。

④「熊本地震復興支援シンポジウム」

期 日：平成28年12月5日

開催地：熊本大学黒髪キャンパス（熊本県熊本市）

概 要：

「被災地における人々のケア—宗教者の役割とその連携の可能性」をテーマに、研究者、宗教者、専門家等が集い、地域住民の心のケア等について話し合われた。

⑤「おうえんプロジェクト for くまもと」

障がい者や高齢者等、特別な配慮を必要とする方々を支援する団体を対象に、財的支援を行った。

⑥熊本震災復興タスクフォース会合を4回開催し、事業についての協議を行った。

（3）東日本大震災復興事業

平成23年3月13日、被災地支援のための「WCRP 東日本大震災緊急勧募」を開始し、7月には、復興支援のための特別事業部門（タスクフォース）を立ち上げた。同年12月には、宮城県仙台市に担当デスクを置き、スタッフを派遣し、少なくとも5年間復興支援を実施することを決定した。（仙台での支援活動は平成28年3月31日に終了）復興への取り組みの方針として、①「失われたいのち」への追悼と鎮魂、②「今を生きるいのち」への連帯、③「これからのいのち」への責任の3つを方針として掲げ、平成28年度も継続して、現地の宗教者やNPO等の支援団体と連携し復興事業を実施した。また、被災地域の厳しい状況に鑑み、復興支援をさらに3年間継続することを決定した。なお、平成28年3月～5月並びに平成29年3月～5月の期間、『東日本大震災をけっ

して忘れない』ための祈りと行動」をテーマに、「WCRP 震災復興キャンペーン」を実施し、復興支援募金、鎮魂並びに復興合同祈願式等を実施した。
平成 28 年度の主な事業は以下の通り。

①フクシマコミュニティづくり支援プロジェクト

東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難者、放射能飛散地域の住民への支援として、福島県内外の避難者・地域住民による活動に対する財的支援を 1 団体 20 万円以内で行った。平成 28 年度は 4 期で 50 団体に支援を行った。

- 第 1 期 審査会 7 月 6 日 (12 団体へ支援)
- 第 2 期 審査会 9 月 27 日 (13 団体へ支援)
- 第 3 期 審査会 12 月 16 日 (11 団体へ支援)
- 第 4 期 審査会 3 月 13 日 (14 団体へ支援)

②フクシマコミュニティづくりプロジェクトの集い

期 日：平成 28 年 9 月 27 日

場 所：ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）

概 要：

福島県の現状や避難先の状況を学び、復興に取り組む団体同士の連携を深めることを目的に開催。39 のフクシマコミュニティづくり支援プロジェクト支援団体の代表者はじめ約 90 人が参加した。

内容は、機関誌「WCRP」11 月号に掲載。

③追悼と復興のための祈り

平成 28 年並びに平成 29 年の 3 月 11 日～21 日の 11 日間、14：46 に 1 分間の黙とうを捧げた。

平成 29 年 3 月 14 日には、ローズファクトリー・ガーデン（宮城県石巻市雄勝町）において「東日本大震災の追悼と鎮魂ならびに復興合同祈願式」を実施。WCRP 日本委員会関係者や現地の宗教者ら約 40 人が参加した。

④三陸海の盆

8 月 27 日に宮城県南三陸町で開催された第 6 回三陸海の盆を支援した。三陸海の盆は「心の復興」を目指し、三陸各地で活動する郷土芸能団体が一堂に会して犠牲者の御霊を追悼、三陸沿岸の早期復興を祈願するとともに、郷土芸能の継承を目的として平成 23 年から開催されている。今回は岩手県、宮城県の 6 市町から 12 団体が参加した。

⑤東日本大震災復興タスクフォースの会合を 4 回開催し、事業についての協議を行った。

2. 講座

平和を脅かす諸課題について、宗教団体のみならず、不特定多数の人々がより深い理解を得るため、以下の講座を開催した。機関誌やホームページを通じて広報するとともに、その内容を掲載した。

(1) 平和大学講座

期 日：平成 29 年 3 月 7 日

場 所：真言宗醍醐派総本山醍醐寺（京都府京都市）

概 要：

「暴力的過激主義者との対話について考える－宗教者にできることは何か－」をテーマに開催し、WCRP 日本委員会関係者、市民など約 100 人が参加した。

内容は、機関誌「WCRP」4月号に掲載。

(2) 新春学習会

期 日：平成 29 年 1 月 25 日

場 所：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

概 要：

「宗教者としての災害の備え－災害時に特別な配慮が必要な方々への対応について」をテーマに開催し、WCRP 日本委員会役員、関係者など約 160 人が参加した。

内容は、機関誌「WCRP」2月号に掲載。

3. セミナー・スタディーツアー

宗教団体の指導者及び実務担当者をはじめ会員・関係者や関心をもつ人々が、平和構築に寄与するため、様々な宗教や異なる文化に対する理解や、国際社会の中で直面する諸問題への理解を深めることを目的として、以下のセミナーやスタディーツアーを実施した。

(1) 韓国宗教平和国際事業団 (IPCR) 国際セミナー

期 日：平成 28 年 9 月 2 日～4 日

場 所：立正佼成会横浜普門館（神奈川県横浜市）

概 要：

2009 年から「東北アジアにおける平和共同体構築のための共通基盤を求めて」を基本テーマに行われているセミナー。平成 28 年度は「東アジア平和共同体構築のための課題」をテーマに開催し、日本・中国・韓国の宗教者、学者、市民団体の代表など約 80 人が参加した。内容は、機関誌「WCRP」10月号に掲載。

4. 平和のための啓発・提言活動

(1) 核兵器廃絶・軍縮に向けた取り組み

①核兵器廃絶に向けた国際特別セッション

－国際司法裁判所 (ICJ) の勧告的意見から 20 年－

期 日：平成 28 年 8 月 2 日～3 日

場 所：国連大学（東京都渋谷区）

概 要：

ヒバクシャ、軍縮に取り組む宗教者、政治家、専門家、市民団体、高校生代表など 11 か国から 80 人が参加して「国際軍縮・安全保障常設委員会特別会合」並びに「公開シンポジウム」（約 140 人参加）が開催された。

内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

②広島・長崎平和関連行事への参画

【広島】

平成 28 年 8 月 6 日早朝、広島戦災供養会主催、広島県宗教連盟奉仕による「原爆死没者慰霊行事」に、WCRP 日本委員会を代表して、松下日肆理事（本門法華宗大本山妙蓮寺貫首）、三宅善信運営委員（金光教泉尾教会総長）らが参列した。その後、広島市主催による「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」に参列した。

【長崎】

平成 28 年 8 月 7 日、長崎県宗教者懇話会の主催による平和交流会が、8 日には第 44 回原爆殉難者慰霊祭が行われ、WCRP 日本委員会から深水正勝理事（カトリック東京大司教区司祭）、大西英玄核兵器禁止条約タスクフォースメンバー（音羽山清水寺執事補）らが参加した。また、8 月 9 日、原爆落下中心地で行われた長崎市主催の「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列した。

③ 「赤いスイッチと世界を救った人間」 上映会

期 日：平成 28 年 9 月 26 日

場 所：東京普門館（東京都杉並区）

概 要：

「核兵器廃絶国際デー」であることから、本上映会を開催し、核兵器廃絶に向けた啓発活動を実施した。

④ 「2020 Vision」 キャンペーン

2020 年までに核兵器廃絶を目指すために、平和首長会議が推進している同キャンペーンに対して、資金的な支援を実施した。

⑤核兵器廃絶・軍縮タスクフォースの会合を 5 回開催し、事業についての協議を行った。

(2) 気候変動に向けた取り組み

①学習会の開催

期 日：平成 28 年 11 月 4 日

場 所：東京普門館（東京都杉並区）

概 要：

「気候変動・地球温暖化に対する宗教者の役割や行動とは何か？」をテーマに、山本良一氏（東京大学名誉教授）を講師に迎えて実施し、35 人が出席した。

② 「SDGs（持続可能な開発目標）ストリート・シアター・プロジェクト」

WCRP 日本委員会、WCRP 国際委員会、ミャンマー委員会の合同事業として、子どもの保健・衛生の促進、諸宗教の青年の間に信頼醸成を目的とした「SDGs ストリート・シアター・プロジェクト」を実施した。また、7 月 21 日～25 日、気候変動タスクフォースの石川清章運営委員（本門法華宗）と神谷昌道 ACRP シニア・アドバイザーが、国際委員会の杉野恭一副事務総長らと共にミャンマーを訪れ、同プロジェクトの視察を行った。

④気候変動タスクフォースの会合を5回開催し、事業についての協議を行った。

(3)「難民問題」への取り組み

①第1回難民問題学習会

期 日：平成28年7月28日

場 所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

概 要：

法務局入国管理局審判課の君塚宏課長、難民支援協会の石川えり代表理事・石井宏明同常任理事を講師に、日本における難民受け入れの課題、宗教者による取り組みに向けた提案等について、聴き取りを行った。

②第2回難民問題学習会

期 日：平成28年10月14日

場 所：東京普門館（東京都杉並区）

概 要：

国連 UNHCR 協会の滝澤三郎理事長、UNHCR 駐日事務所の小尾尚子副代表を講師に迎え、難民が発生する原因や国際的な保護体制、日本における難民申請の状況などについて学習した。

③第3回難民問題学習会

期 日：平成28年12月20日

場 所：東京普門館（東京都杉並区）

概 要：

益田哲夫氏（危機管理日本アイシス・コンサルティング株式会社代表取締役社長）を講師に迎えて、「難民問題の現状と課題ー近年における難民問題の根源の一考察」をテーマに実施した。

④元カンボジア難民プノム氏の受け入れ・学習会

平成29年1月24日から28日に、元カンボジア難民のノウン・ヴァンナック（プノム）氏を招聘した。プノム氏は、約40年前難民としてプノンペンから逃れ、当時WCRPが支援していた難民キャンプ「サイト2」に辿り着いた。

明治神宮、築地本願寺等への訪問や26日には「共に生きるための難民支援とは」をテーマに特別学習会を開催した。

⑤第4回難民問題学習会

期 日：平成29年2月21日

場 所：立正佼成会大聖ホール（東京都杉並区）

概 要：

「難民問題を学ぶーカナダの事例からー」をテーマに、カナダのカトリック・トロント大司教区難民事務局所長のマルティン・マルク博士を招き、難民受け入れの現状に関する学習会を実施した。宗教者、NPO関係者ら約60人が参加した。

⑥シリア難民受け入れ

3月末より、難民支援協会と連携し、シリア難民の留学生5名の受け入れを実施した。

⑦難民問題タスクフォース会合を5回開催し、事業に関する協議を行った。

(4) 「和解のための教育」への取り組み

①平和構築に向けた和解トレーニング

期 日：平成29年2月13日

場 所：東京普門館（東京都杉並区）

概 要：

フィリピン・ミンダナオ島で実際に平和構築トレーニングを実施しているミンダナオ・ピースビルディング・インスティテュート（MPI）のマリア・デン氏を講師に迎え、「平和構築に向けた和解トレーニング」をテーマに開催した。宗教者、NGO関係者ら約60人が参加し、レクチャーだけではなくワーク形式での学習を行った。

内容は、機関誌「WCRP」3月号に掲載。

②平和と和解のためのファシリテーター養成講座の開設準備

③和解の教育タスクフォース会合を4回開催し、事業に関する協議を行った。

5. 平和のための調査・研究

当団体に専門の研究機関として「平和研究所」を設け、平和に資する調査・研究を継続している。平成28年度は、以下に概要がある通り9回の研究会を開催した。

また、研究会の内容は、機関誌「WCRP」に掲載し、広く情報提供すると共に、書籍を毎年約800部発行し、宗教関係者・大学・研究所・図書館並びにマスコミ関係者に約400部を無料で配布している。報告書に関する詳細は、以下の「8. 広報活動」にある通り。

(1) 研究会

①第1回研究会

期 日：平成28年4月19日

会 場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：眞田芳憲（WCRP日本委員会平和研究所所長、中央大学名誉教授）

テーマ：「大逆事件と禅僧内山愚童の無政府主義の思想と行動

ーディートリッヒ・ボンヘッファーと内山愚童の殉教の比較思想の可能性を視座に据えてー」

②第2回研究会

期 日：平成28年5月29日

会 場：東京普門館（東京都杉並区）

発表者：ホアン・マシア（WCRP日本委員会平和研究所所員、上智大学元教授）

テーマ：「慈悲と感謝の流れ 福音書にみる『祝福の論』」

③第3回研究会

期 日：平成28年6月17日

会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：松井ケティ（WCRP 日本委員会平和研究所所員、清泉女子大学教授）
テーマ：「大統領の宗教観とコミュニティサービス・キャンパスチャレンジ」

④第4回研究会

期 日：平成 28 年 7 月 28 日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：藪田稔（WCRP 日本委員会平和研究所所員、京都大学名誉教授）
テーマ：「『地方創生』に関わる風土祭祀各論－『山・里・海を紡ぐ宗教文化』」

⑤第5回研究会

期 日：平成 28 年 9 月 26 日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：山崎龍明（WCRP 日本委員会平和研究所所長、武蔵野大学名誉教授）
テーマ：「宗教者の平和運動をめぐって－課題と展望」

⑥第6回研究会

期 日：平成 28 年 10 月 18 日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：竹村牧男（WCRP 日本委員会平和研究所所員、東洋大学学長）
テーマ：「最澄の利他思想に学ぶ」

⑦第7回研究会

期 日：平成 28 年 11 月 15 日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：金子昭（WCRP 日本委員会平和研究所所員、天理大学おやさと研究所教授）
テーマ：「WCRP 創設の理念とシュヴァイツァーの反核・平和思想」

⑧第8回研究会

期 日：平成 29 年 2 月 14 日
会 場：東京普門館（東京都杉並区）
発表者：李起豪（韓国・韓信大学教授）
テーマ：「韓国の現状及び宗教者へ期待する役割－今世界は、どう動いているのか－」

⑨第9回研究会（合宿）

期 日：平成 29 年 3 月 27 日～28 日
会 場：静岡県熱海市
発表者：黒田壽郎（WCRP 日本委員会平和研究所所員、国際大学名誉教授）
テーマ：「四代正統カリフ・アリーの説教によるイスラーム政体論」

(2) 所員会議を9回行い、研究事業や運営についての協議を行った。

6. 女性による平和活動

女性の特性を活かした平和活動を推進するための「女性部会」を設け、不特定多数の人々を対象として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会や、平和教育・倫理教育に資するため、青少年を対象としたいのちに関する意識調査などを実施している。

(1) いのちに関する学習会

不特定多数の人々を対象として、啓発活動の一環として、いのちの尊厳に対する理解を深めるための学習会を以下の通り開催した。

期 日：平成28年7月18日

場 所：イエズス会岐部ホール（東京都千代田区）

参加者：約50人

概 要：

「いのちの平和と食の安全を守るためにーバイオテクノロジーによる遺伝子組み換え作物をめぐる動向」をテーマとして、カトリック聖コロンバン会神父のポール・マツカーティン師を講師に迎えて学習会を実施した。

(2) 自尊心を高める親子のためのワークショップ

期 日：平成28年9月24日

場 所：立正佼成会大田教会（東京都大田区）

概 要：

WCRP 日本委員会女性部会の委員、会員とともに15組の親子（小学生とその親）約40人が参加した。清泉女子大学の松井ケティ教授がファシリテーターを務め、体験型のワークショップを通して、家族間の関係性を見つめ直し、思いの共有を行った。内容は、機関誌「WCRP」10月号に掲載。

(3) 宗教別学習会

各宗教についての相互理解を深め、諸宗教と平和に関する諸問題について学ぶため、以下の概要で実施した。

期 日：平成28年11月6日～7日

会 場：黒住教本部（岡山県）

参加者：13人

概 要：正式参拝、見学。黒住宗道師（黒住教副教主）の講演、日拝、吉備津神社・宗忠神社の訪問。

(4) アドボカシー委員会

災害時に障がいをもつ方々や高齢者など特別なケアを必要とする方々への対応についての認識や理解を広め、自治体や宗教施設等、避難所になる可能性のあるところに事前の準備を促すことを目的として活動している。

平成29年2月25日、日本イスラーム文化センター（東京都豊島区）において、「防災ワークショップ」を開催し、女性部会委員、会員、地域住人ら20人が参加した。

また、宗教施設を対象とした災害時の避難者受け入れマニュアル作成の準備を進めた。

(5) 女性部会委員会を5回開催し、事業や運営についての協議を行った。

7. 青年による平和活動

青年の特性を活かした平和活動を推進するための「青年部会」を設け、宗教伝統や文化をより理解し、相互交流を図るため、サマーキャンプや日本と韓国の青年の交流などのプログラムを実施している。

(1) 日米韓青年交流プログラム

期 日：平成28年6月10日～12日

会 場：臨済宗大本山円覚寺居士林（神奈川県鎌倉市）

概 要：

米国・コーネル大学、武蔵野大学の学生18名とWCRP日本委員会及び韓国宗教人平和会議（KCRP）の青年9名が参加し、仏教をはじめとする宗教に関する理解を深め、相互理解と友好関係を醸成した。

内容は、機関誌「WCRP」8月号に掲載。

(2) サマーキャンプ2016

体験や講義を通して他の宗教に対する学びを深めるとともに、参加者の相互理解を深め、諸宗教と平和について学ぶため、以下の概要で実施した。

期 日：平成28年8月26日～28日

会 場：まなびの里いりやど（宮城県南三陸町）・天台宗中尊寺（岩手県）

概 要：

「ともに支え合うー被災地の今、私たちができることとはー」をテーマにサマーキャンプ2016を開催し、8教団から約40人が参加した。

内容は、機関誌「WCRP」9月号に掲載。

(3) ワークショップ

期 日：平成28年9月27日

会 場：東京普門館（東京都杉並区）

概 要：

青年幹事対象にファシリテーション手法を学ぶワークショップを開催した。

「ともに支え合う」をテーマに、東北アジア地域平和構築インスティテュート（NARPI）運営委員の片野淳彦氏が講師を務めた。

(4) ACRP ユースキャンプへの参加

期 日：平成28年11月17日～20日

会 場：ピウス12世カトリックセンター、サント・トーマス大学
（フィリピン・マニラ市）

概 要：

ACRP と ACRP ソウル平和教育センターの共催で、「貧困層に影響を与える気候変動への応答ー共通の行動の強化と青年リーダー育成ー」をテーマとして開催された。

ACRP 加盟の 12 カ国から青年宗教者約 60 人が参加し、日本からは大西英玄幹事（音羽山清水寺執事補）と廣田恭子幹事（立正佼成会総務部渉外グループ）が参加した。内容は、機関誌「WCRP」12月号に掲載。

(5) 公開学習会

期 日：平成 29 年 2 月 19 日

会 場：浅草寺五重塔院信徒室（東京都台東区）

概 要：

「ともに支えあう」をテーマに、東日本大震災の語り部である佐藤誠悦氏（元気仙沼消防署指揮隊長・南三陸町消防署元副署長）を基調講演者に招き、公開学習会を実施した。青年部会関係者、市民など 110 人が参加した。

(6) 青年部会幹事会を 4 回実施し、事業や運営に関する協議を行った。

8. 広報活動

当団体の事業等を広く一般に周知し、国内外の宗教状況、諸宗教の対話、国際社会が直面する平和を脅かす諸課題に関する情報などを広く一般に提供するため、以下の広報活動を行った。

(1) マスコミ関係者との情報交換

①プレスリリース

平成 28 年度は、24 のプレスリリースを発行し、マスコミ関係者等に送付した。

②記者懇談会

ミャンマー諸宗教者の来日時並びに ACRP40 周年記念事業実施時の 2 回にわたり、記者懇談会を開催した。

(2) ホームページ

ホームページを通して、事業報告や告知を行った。随時更新するとともに、より分かりやすくなるようデザインを変更した。また、ホームページを通じて、広く一般に学習会等への参加を呼びかけ、その申し込みの受付を行い、市民からの問い合わせに対応した。

(3) 出版

①機関誌「WCRP」

毎月 2,500 部発行し、会員のみならず、宗教関係者・大学・研究機関・図書館・国連や NGO 関係者並びにマスコミ関係者等、約 2,000 部を無料配布した。また、ホームページ等を通じて広報し、申込者に対し、年間購読料 1,000 円で送付した。

②平成 27 年度活動報告

平成 28 年 9 月に平成 27 年度活動報告を 2,500 部発行し、WCRP 日本委員会関係者・賛助会員のみならず、NGO/NPO、国連機関、図書館、マスコミ関係者等に 2,000 部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に無料で提供した。

③「平和のための宗教 対話と協力8」

平和研究所所員による研究報告、平成25年度平和大学講座特集を掲載。

800部発行し、WCRP日本委員会役員のみならず、図書館、マスコミ関係者等に250部を無料配布した。また、機関誌及びホームページ等を通じて広報し、申込者に頒価(800円)で提供した。

④「第40回平和のための宗教者研究集会報告書」

平成25年9月に開催された研究集会『第9回WCRP世界大会に向けて』の内容が収録されている。(頒価：500円)

II. 法人運営部門

1. 法務に関する業務

- (1) 内閣府への報告等及び登記事務他
- (2) 法人に関する業務

2. 会議に関する業務

(1) 評議員会

①第12回評議員会

期日：平成28年6月27日

会場：天台宗務庁（滋賀県大津市）

②第13回評議員会

期日：平成29年1月25日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

(2) 理事会

①第18回理事会

期日：平成28年6月13日

会場：大宮八幡宮（東京都杉並区）

②第19回理事会

期日：平成28年9月13日

会場：臨済宗妙心寺派「花園会館」（京都府京都市）

③第20回理事会

期日：平成29年1月25日

会場：立正佼成会法輪閣（東京都杉並区）

④第21回理事会

期日：平成29年3月7日

会場：真言宗醍醐派総本山醍醐寺（京都府京都市）

(3) その他諸会議の運営及び記録他

①総合企画委員会

6回開催

3. 監査に関する業務

平成28年5月27日に実施

4. 財務に関する業務

(1) 資産運用及び管理に関する業務

(2) 経理、会計、記帳計算に関する業務

5. 文書管理に関する業務

各種文書の作成、提出、管理及び保管他

6. 人事及び福利厚生に関する業務

勤怠管理、安全衛生及び福利厚生他

7. 庶務に関する業務

①什器備品、印刷物、公印等の管理他

②その他どの部門にも属さない事項の処理他

平成28年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上

平成29年5月25日

公益財団法人 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会